

読書教育重点校活動報告

2010.3.25 大津町立大津北小学校



本年度から次年度にかけ、本校は、教育会館より「読書教育重点校」の助成を受け、読書活動の充実を図っています。ここでは、本年度の主な活動状況についてご紹介します。

本年度本校研究テーマとの関連

本校教育目標

大津北小に誇りを持ち、進んで勉強し、友だちと助け合い、心身共にたくましく生きぬく子どもの育成

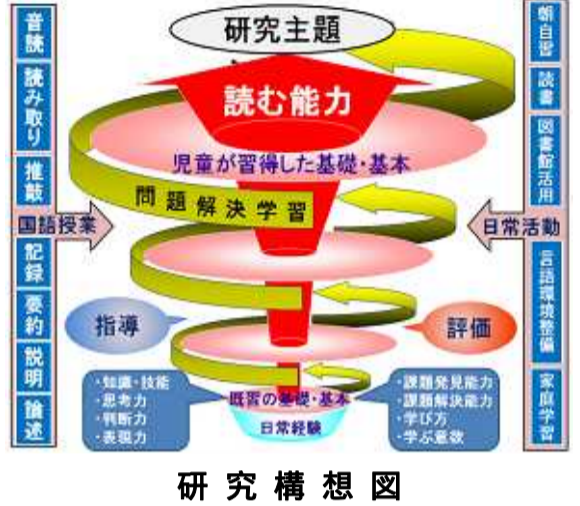
確かな学力を身につけ、生き生きと活動する児童の育成を目指して

～国語科における「読む能力」にかかわる言語活動の工夫～

本校研究主題

<仮説1> 学年に応じた身につける「読む能力」を明確にして、授業展開、発問、指導法等を改善し、「読む能力」にかかわる言語活動を工夫すれば、児童の「読む能力」を高めることができるであろう。

<仮説2> 様々な機会を通して文章に親しみ、読書の幅を広げたり量を増やしたりする工夫をしていけば、児童が読書に意欲的に取り組み、その中で多様な表現や語彙を獲得することで、児童の「読む能力」を高めることができるであろう。



研究構想図

読書活動の充実



東市子理事長（右）より寄贈される

8月12日、本校に熊本県教育会館の東市子理事長が来校され、本年度分の10万円分の図書券をいただきました（写真左は本校の西田教頭）。さっそく、新刊図書を中心に、児童に人気のある本や、是非読んでもらいたい本等を購入しました。



平成21年度 図書委員会メンバー

本校図書委員会では、委員長（左の写真右端）の提案で、右の写真のように、本年度の活動目標を「全校児童が一人あたり50冊以上本を読めるようにする」としました。



保護者ボランティアグループ「BSD」(ブック・スマイル・ドリーム)の読み聞かせ活動

本校では、毎週木曜日の朝自習を「読書の時間」とし、保護者ボランティアグループ「BSD」(ブック・スマイル・ドリームの略称)による読み聞かせや読書活動を行っています。朝の限られた時間に、都合がつくメンバーによるボランティア活動です。児童も楽しみにしています。



読み聞かせ(BSD)

11月にはBSDの企画による「たえ子おばあちゃんの読み聞かせ会」を行いました。地域で長年読み聞かせ活動を続けておられる緒方妙子さんによる「三まいのおふだ」等、3つの民話の読み聞かせは、児童はもちろん、先生方にも大変好評でした。



たえ子おばあちゃんの読み聞かせ会

12月には、「BSD発表会」が行われました。毎年恒例となったこの活動は、劇やパネルシアター等、児童が楽しみにしている活動で、児童が本に親しみをもつきっかけの一つになっています。これらの活動が、本年度の児童の読書冊数の増加につながっています。



BSD発表会

本校児童による図書委員会活動(全校児童50冊読書にむけて)

本年度は、本校図書委員会の児童が、BSDのみなさんによる木曜朝の読み聞かせの際、BSDメンバーが来られない学級に対して、自主的に読み聞かせ活動を行っています。聞く児童はもとより、読み聞かせを行う図書委員会の児童にとっても、楽しい時間になっています。



図書委員会による読み聞かせ

本年度、図書委員会では、低、中、高学年ごとに、「おすすめ図書」を選定し、校内テレビ放送システムを使って全校児童に紹介しました。図書委員がそれぞれの本のおすすめの場面と感想を発信したこの取り組みは、紹介した本を中心に貸出し冊数の増加につながりました。



校内テレビ放送による紹介

図書委員会では、本年度の目標に向けて、全校児童にもっと読書に親んでもらおうと、本校初となる、図書委員会によるパネルシアターを児童が自主的に計画し、2月について実施にこぎつけました。BSDのパネルシアターを参考に、「ぞうのたまごのたまごやき」を行い、全校児童に楽しんでもらいました。



図書委員会初のパネルシアター

読書の山のぼり



読書の山のぼり

本校では、児童の読書冊数を「読書の山のぼり」として図書室横に掲示しています（12月15日現在）。最下段は20冊、最上段は100冊を超えた児童です。3月で100冊を超えた児童は40名、中には200冊を超えた児童も数名いました。

校内童話発表会



校内童話発表会

本校では、夏休みに行われる町童話発表会に向けて、6～7月にかけて、各学級で取り組んでいます。全校児童が自分の選んだ童話を暗記、読み方を工夫した上で、7月に各学級で行われる予選会に臨みます。そこで選ばれた各学級代表2名による校内童話発表会を経て、学校代表を選出しています。

読書ビンゴ



読書ビンゴ

（左：1年生、右：3年生）

11月には、「読書ビンゴ」に取り組みました。左の写真が、読書ビンゴのカードです。3マス×3マスに、各学年に応じた「読んでほしい本のジャンル」が示してあり、児童は、それにあつた本を読み、その題名と、一言感想を書き込んでいきます。この取り組みで、児童の読書量と読書の幅が広がりました。

100冊読書児童表彰



図書委員長による100冊読書表彰

図書委員会では、10月、1月、3月に100冊を超えた児童を紹介し、図書委員長より表彰を行っています。右の写真は、1月の表彰の様子です。この時に100冊を超えた児童は18名でした。3月には40名になったことから、児童の読書意欲の高さが継続していたことがうかがえます。

学校図書館の活用



本棚に差し込まれた紹介ファイル

右に示したシートは、5年生が、授業で学習したことをきっかけに取り組みを始めた本の紹介メモです。それぞれの児童が「おもしろいな」と思った本について、右のように紹介メモに自主的に書き込み、左の写真のように、クリアファイルに入れた上で紹介した本の横に差し込んでおきます。こうすることで、他の児童が、その本を「読みたいな」と思うきっかけとなるわけです。現在、色違いのクリアファイルを用意し、他の学年へ取り組みを広げているところです。このように、授業や日常活動をきっかけにして、児童の主体的な図書館活用を促すなど、学校図書館を効果的に活用しています。



本の紹介メモ

取組の成果と課題

児童一人あたりの月別図書貸出し冊数から

右のグラフは、本年度の児童一人あたりの図書貸出し冊数の月別推移を示しています（12月まで）。このグラフから、まず、6月と9月以降において、一人あたりの貸出し冊数が10冊を超えていることがわかります。6月には、本校で行っている集会活動「スクラムタイム」において、4年生児童が読書感想画とともにおすすめの本の紹介を行っています。また、図書委員会による「読書の山登り」の取り組みも始まっています。9月には、図書委員会による「おすすめの本紹介」の校内テレビ放送を実施しています。10月には100冊を超えた児童への表彰を、11月には、BSD主催で、緒方妙子さんの読み聞かせ会及び図書委員会による「読書ビンゴ」を、さらに12月には、BSD発表会を行っています。このことから、これらの取り組みで、児童の読書に対する意欲が高まる効果が見られたといえます。尚、本年度の児童一人当たり図書貸出し冊数は、月平均で9.67冊（7月、8月をまとめ一月として計算）でした。昨年度が4.97冊であったことから、冊数としては2倍弱の伸びとなりました。



学年別・分類別図書貸し出し冊数割合から

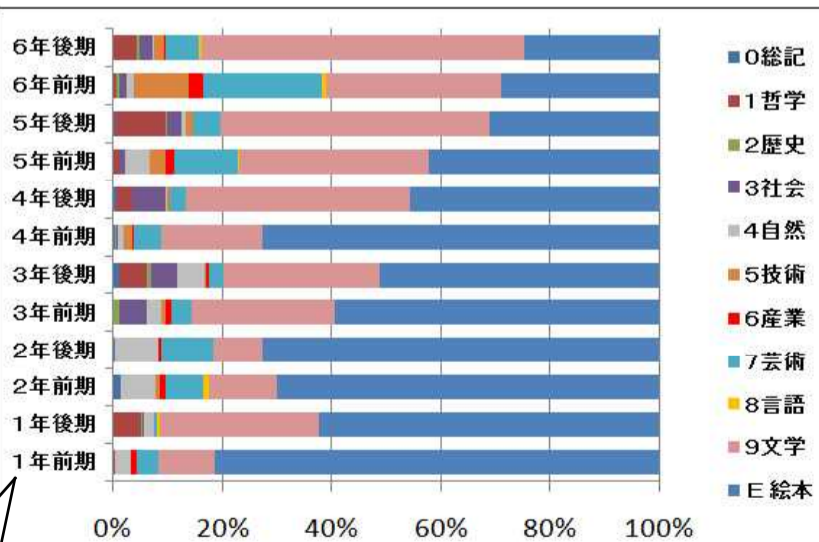
本校の本年度図書貸し出し冊数は、3月2日現在で、6318冊に達しました。これは一人当たり換算すると67.21冊となり、平均では図書委員会の本年度目標である「50冊以上」を達成したことになります。個別で見ると、一番少ない児童でも、30冊を超えており、児童が本をたくさん読んだことがわかります。右のグラフは、各学年一人当たりの分類別図書貸し出し冊数割合を前期と後期で比較したものです。このグラフから、おおよそ次のことが言えます。

どの学年も、「絵本」と「文学」の割合が大半を占めている。この2つは、普通「読書」という場合に読むジャンルです。この2つ以外のジャンルは、主に調べ学習、観察・実験等に利用されることが多いことから、次年度、授業等での更なる活用を図ることで、その割合が増えると思われます。絵本については、特に前期、童話発表会が行われるため、その分、割合が大きくなると考えられます。

おおよそ上学年ほど「絵本」の割合が減り、「文学」の割合が増えている。本校児童が、発達段階に応じて次第に文字量の多い本を好むようになっていると言えます。

おおよそ各学年とも、後期が「絵本」の割合が減り、「文学」の割合が増えている。このことから、本年度の様々な取組が、児童の言語に対する関心を高めていると言えます。

学年によって、「文学」「絵本」以外のジャンルの増減に特色がある。おおよそ、どの学年も、一人当たりの本の貸し出し冊数は、前期よりも後期が増加している傾向にあります。このことを踏まえると、「文学」「絵本」以外のジャンルの増減は、各学年の取組等の傾向を反映していると言えます。



以上のことから、本年度の取組で、児童が更に意欲的に本を読むようになったことが明らかとなりました。次年度は、読書の幅及び質を更に高めるために、本を読んだ感想を伝えあったり、様々なジャンルの本に親しんだりするための手立てを考えています。また、読書量の個人差を更に少なくするための取組も進めていこうと考えています。